



左から服部選手、岡本社長、岡山水急大阪の金田選手、岡治郎所長

スト女性部門でも優勝しており、「（今回のコンテストでの内容は）納得できるものではないか

育男選手が選ばれ、点呼部門は岡山水急大阪（点呼者は金田崇選手）が優勝した。服部選手は2015年度の岡山県トラックドライバークンテ

つたが、ここまで来たら全力でやってきます」と全国大会への抱負を語った。

閉会式では、服部選手と、今月行われるロジステイクス・ネットワーク協力運送会社会「ロジネット協力会」によるドライバークンテスト西日本大会にエントリーする前川一希選手（倉富物流センター）の壮行会も行われ、前川氏も「社長を全国大会に連れて行くためにも頑張りたい」と意気込みを示した。

また、来賓のヤクルト・ウエスト・ロジステイクス荒谷充郎取締役は「岡山スイキユウとの付き合いはまだ1年だが、レベルの高い事業所となっており、他営業所の研修の場になりたいとも考えている。今日は安全へのレベルの高さを認識させてもらった」と感想を述べていた。

ひと

醍醐倉庫の醍醐正明社長が全法連青年部会連絡協議会会長に 部会員増強、他団体との対談通じ法人会の認知度向上に注力



醍醐倉庫（本社・東京都大田区）の醍醐正明社長は、全法連青年部会連絡協議会（全法連）

青年部会連絡協議会の会長に就任した。租税教育を量・質ともに拡大するとともに、①税の「使い道」について考えていくこと②部会員の増強③法人会の認知度向上——を重点取り組みとし、醍醐氏自ら他団体との対談等も積極的に行っていく考えだ。

法人会は設立当初から「納税道義の高揚、税知識の普及」をテーマの柱に、「税のオピニオンリーダー」として活動を推進してきた。醍醐氏によると「これまでは主に納税、税を集めることに焦点が当てられてきた。『税のオピニオンリーダー』としては、税の『使い道』についても法人会として考えていくことが必要だ」。1年目は勉強期間とし、2面目に何らかの形での発

信をめざしている。

もうひとつの重点取り組みは部会員の増強。過去には130万社の会員数だったのが、直近（昨年12月末現在）では82万社まで減少し、減少傾向に歯止めがかからないという。「会員数が減っていることが考えられる。逆に言えば、会員数が増えれば会の活動も活性化される。青年部会の部会員を増やし、活発な活動を実施し、会員増強に努めていきたい」と意欲をみせる。

また、法人会の認知度向上にも取り組む。全国各地に441単位法人会があるが、清掃活動や租税教育などの活動を地元のケーブルテレビ局に取材してもらうことでより認知度を高められないか——と提案。法人会の存在を知ってもらう機会とするため、会長任期2年間で各種対談を計画しており、これまでに前国税庁長官との対談も実現。「他団体との対談を通じて交流を積極化していきたい」と語った。